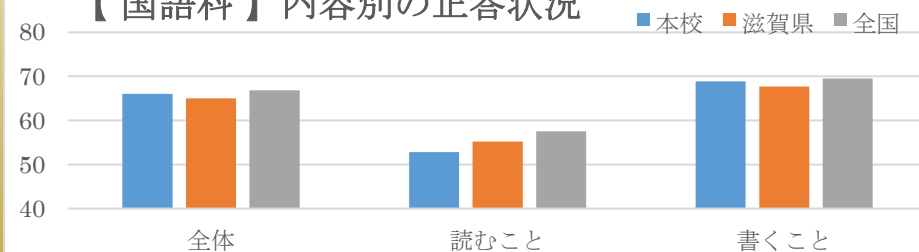


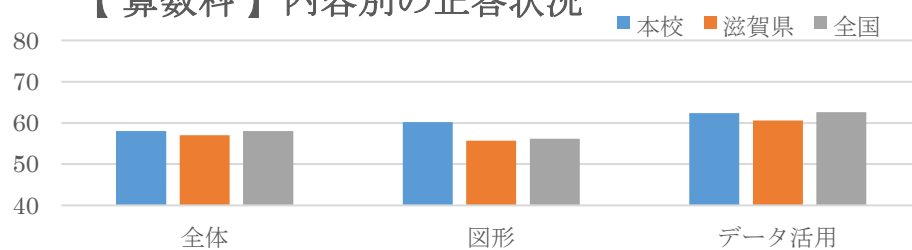
学習にかかわること(国語・算数・理科)

【国語科】内容別の正答状況



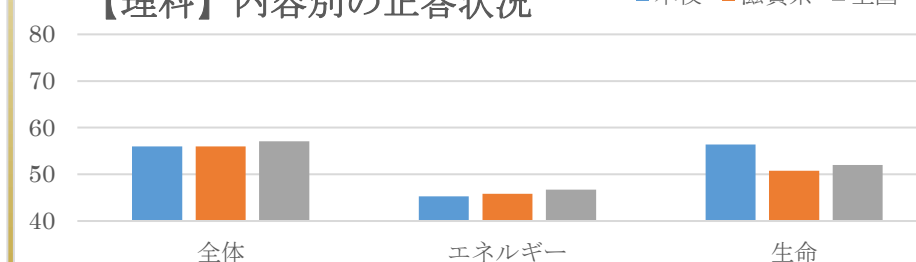
国語科では、調査結果全体や「書くこと」において、県の正答率を上回り、全国の正答率と同程度でした。無答率が低く、漢字の読み書きの正答率が高いことなどから、基礎基本の定着が見られます。いくつかの資料から必要なことを読み取り、条件に合わせてまとめて書く力がついてきました。「読むこと」では、文章の内容や目的を正確に読み取ることに課題が見られました。

【算数科】内容別の正答状況



算数科では、調査結果全体を通して、県の正答率を上回り、全国の正答率と同程度でした。「図形」「測定」「変化と関係」の領域において全国の正答率を上回りました。図形の意味や性質、伴って変わる二つの数量の関係の理解が特によくできました。「データの活用」領域においては、目的に応じて表やグラフを選択して読み取り、データの特徴を考察する設問で、全国平均をわずかに下回りました。

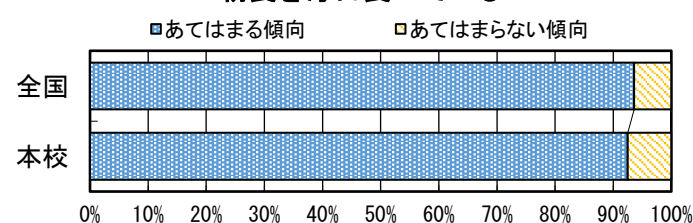
【理科】内容別の正答状況



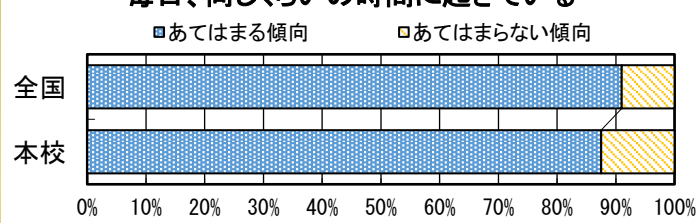
理科では、調査結果全体を通して全国や県の正答率と同程度でした。「生命」の領域で、植物の発芽条件やその実験についての問題が特によくできました。「粒子」の領域で、水の状態変化について概念的に理解できているかを問う設問で全国や県の正答率を下回りました。電気や磁石、実験の方法等、基本的な知識の定着に課題が見られました。

生活にかかわること(児童質問紙)

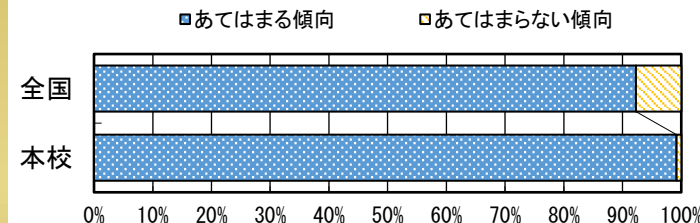
朝食を毎日食べている



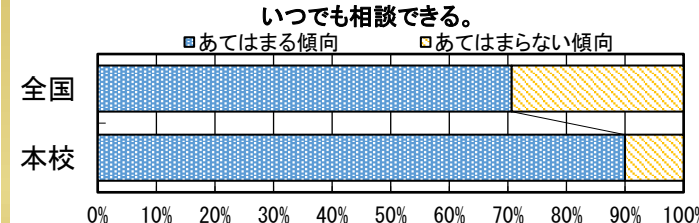
毎日、同じくらいの時間に起きている



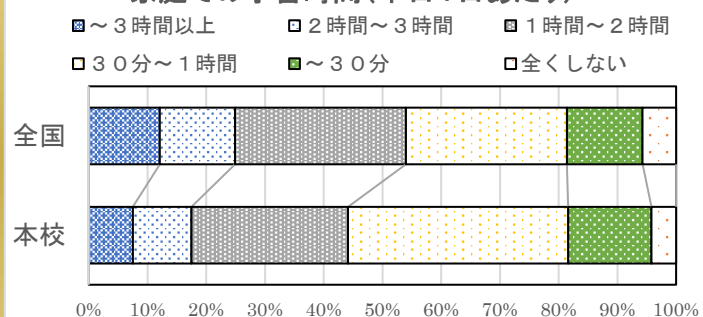
先生は、あなたのよいところを認めてくれる



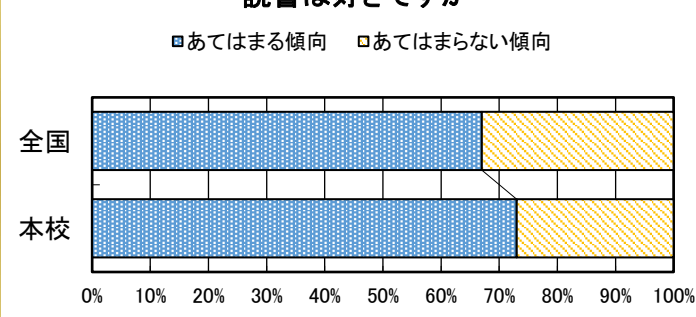
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。



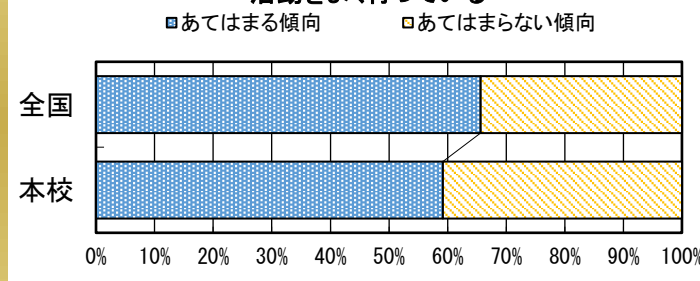
家庭での学習時間(平日1日あたり)



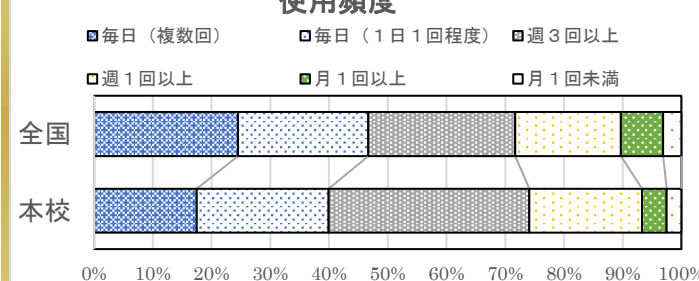
読書は好きですか



算数の授業で、どのように考えたのか説明する活動をよく行っている



授業でのPC・タブレットなどのICT機器の使用頻度



「朝食を毎日食べる」、「毎日同じ時刻に起きる」といった項目から、基本的な生活が多くの家庭できちんと習慣化されていることがわかります。また、昨年度に続き「先生はよいところを認めてくれる」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」等の項目でも、高い割合であてはまると答えた児童が多いです。自尊感情や自己肯定感の高まりが継続し、安心した学校生活を送れるよう、引き続き家庭と協力しながら個に応じた丁寧な指導支援に努めていきます。「読書が好き」と答えた割合が多い一方で、「学校以外での読書時間」は全国平均を下回っています。また、「学校の授業以外に1日あたり1時間以上学習をしている」割合が低い結果となっています。家庭学習の量や内容について、家庭との連携を図りながら考えていきます。国語、算数、理科の勉強は「得意」「好き」「よくわかる」と答えた割合が高いです。引き続き、学習意欲や学びの質を高めていけるように努めます。一方で、自分の考えを説明したり、書いたり、まとめたりすることや、道徳や学級会などで話し合うこと、総合的な学習の時間に自分で課題を立てて学習を進めていく活動といった項目では、全国平均を下回り、課題が見られます。各教科や学級活動、日々の学校生活の中など、様々な場で、自分の考えをまとめ、伝えたり説明したり、話し合っ様々考えにふれて深めたりすることを大切にして、授業改善を進めていきます。

全国学力・学習状況調査（２０２５年４月１７日 ６年生を対象に実施）

【調査結果から考える重点取組事項】

〈学校での授業改善〉

①既習の基礎基本事項(きまりや公式、知識)の定期的な確認と習熟

②各教科で学んだことを生かしたり、自ら立てた課題を基に探究的に調べたりする学習の展開

③各教科での言語活動の充実や学級会を中心とした話し合い活動の積み上げ

④自ら進んで学ぶ意欲を支援するICT機器の活用と学習環境づくり

〈家庭での意識改善〉

学習の習慣化（基礎基本の定着を図る宿題＋自主学習による復習・予習や調べたり表現したりする学習・ICTの活用）

〈学校・家庭・地域の連携〉

読書活動の推進(図書室や学級文庫の充実、図書館や電子図書館などの積極的な利用)、読み聞かせや学習支援など積極的なボランティア参画